

活動報告書のまとめ方

2024年9月1日 認定審査会

【基本的事項】

- ・活動報告は全てホームページにて登録を行う
- ・題名は40字以内（スペース含む）、本文は1400字以内（スペース含む）で登録する
- ・キーワードを10字以内で3つ記載する ※報告内容に即したものを選択すること
- ・活動報告は認定訪問療法士の資格が生かされている活動であることがわかり、その課題の抽出や取り組み方法、経過、考察が記載することができるものであれば認められる

【全体を通して】

- ・写真や図表の添付はできない
- ・他者や他事業所に対して批判的な表現を使用しない
- ・個別の事例を例示する場合、対象者となる個人が特定できないように年齢、病院・施設、経年など個人特定に繋がる情報の匿名化を厳守する
例) 72歳→70歳代、年数→X年、病院名や地域→A病院、B県
- ・活動報告では体言止めは使用しない（体言止め：文末を名詞や代名詞で終わること）
例) ×「地域住民の体力測定を実施。」→○「地域住民の体力測定を実施した。」
- ・文末の時制は、記載した文の内容に合わせる（過去の内容「～であった」、現在や未来の内容「～である」など）
- ・略語を用いる場合は、正式名称およびフルスペル記載後に略語を記載する
例) ①リハビリテーション（以下、リハ） ②Barthel Index（以下、BI）
- ・提出前に、可能な限り第三者の添削を受けるなどして、誤字脱字、不適切な文章表現はないか十分確認する

【報告書書き方】

1. 取り組みの背景

- ・取り組みの背景には、活動報告書で紹介する取り組みについて背景となる地域の状況や前提となる組織の体制、先行して行っていた取り組みなどを記入する
- ・執筆者の活動であることが分かるように記載する

2. 課題の整理・抽出

- ・課題の整理・抽出には、報告する取り組みに至った理由を記入する
- ・前項と含めてどのような現状から何を考え課題に設定したのかを記入する
- ・背景や活動に対しての評価結果を記載し、活動における課題を整理する

3. 取り組み方法

- ・取り組み方法（内容）については、前項の課題の解決のためどのような取り組みを行ったのか内容を記入する
- ・取り組み内容について他の地域や訪問リハに従事する方に参考となるよう、取り組み開始のポイントや問題の解決策などを併記する
- ・法令を遵守した取り組みであることが分かるよう記載する

4. 経過および考察

- ・経過および考察の項では、取り組みの結果、課題の解決に対する効果や地域への影響などを経過と共に考察する
- ・取り組みの成否は問わない、むしろ失敗した報告も重要で、その失敗が他者の参考になる場合がある
- ・取り組みの結果を再評価し、その評価結果に基づいた考察となるよう記載する

【活動報告書題名：参考例】 ※過去に承認された活動報告書の題名

- 「短期集中型訪問サービス事業への対応」
- 「介護給付適正化事業に係る訪問療法士の関わり」
- 「LIFE 事業所フィードバックから考える地域での事業所展開」
- 「ハラスメント対策における在宅場面危険予知トレーニング（KYT）の試み」
- 「市町村単位でのリハビリテーション専門職協議会の活動」
- 「訪問リハビリテーション専門職の勤務継続意向の特徴」
- 「終末期の事例への訪問療法士と看護師の積極的な協働について」
- 「多職種合同での台風時の利用者の事前対策への取り組み～台風6号の反省から～」
- 「当地域における地域支援事業へのPTの関わり」
- 「地域の介護支援専門員に向けた勉強会の実施」
- 「包括的健康支援を目的とした通いの場創設の試み」
- 「特別支援学校教育および重症心身障害児放課後デイサービスへの支援」
- 「訪問リハビリの活性化・理解度向上に向けて開始した訪問リハビリ通信の活動結果と課題」